

シロチドリ *Charadrius alexandrinus* Linnaeus

## 【選定理由】

愛知県鳥類生息調査の結果を見ると、県内では伊勢湾の鍋田と庄内川河口、西三河の矢作川河口、東三河では汐川河口の調査地点で記録がある。1970年代（当時庄内川河口は調査していないので0羽として）は合計で2,500羽程度以上の記録があるが、現在は最も生息数の多い庄内川河口を加えても200羽に満たない。1990年代までの伊勢・三河湾では埋立てが盛んで、調査地点以外の埋立地にはそれ以上の個体が生息・繁殖していたが、現在埋立地の生息・繁殖環境の大半は消失している。

## 【形態】

全長約17cm。雄の夏羽は頭頂が茶褐色で、上面、雨覆は灰褐色。前頭には黒帯があり、額と眉斑は白色。過眼線と胸側は黒色。喉から体下面は白色。雌は頭頂、過眼線、胸側が茶褐色。雄の冬羽や幼鳥は雌に似る。嘴は黒色。脚は青灰色。虹彩は暗褐色。



愛知県西尾市, 2008年5月11日, 高橋伸夫 撮影

## 【分布の概要】

## 【県内の分布】

干潟や沿岸部にはほぼ一年を通して生息しており、平野部にある河川や沿岸部の砂地、干拓地や埋立地の裸地などで繁殖する。

## 【国内の分布】

北海道から南西諸島で繁殖し、渡りを行うものもいる。

## 【世界の分布】

13亜種が、全世界の温帯から熱帯地域に分布する。

## 【生息地の環境／生態的特性】

平野部を流れる河川の河原や河口部の干潟周辺、海岸などにできた砂地が本来の営巣環境である。干拓地や埋立地にある人工的な裸地や、海岸堤防のコンクリート上での営巣例もあるが、それらのいずれもが継続していない。繁殖期以外は餌場である干潟を中心に生息し、満潮になると堤防の上などで休息する。留鳥とされているが季節によって生息数が大きく変動することから、渡りの規模は不明であるものの、季節による移動を行っているものと推測される。

## 【現在の生息状況／減少の要因】

現在県内に生息する個体の総数は200羽程度以下であり、1970年代に生息していた数の5%程度にまで減少していることが推測される。減少の要因は開発による河川や海岸の環境破壊で、営巣場所であった河岸の砂地環境は河口堰や高水敷の工事などにより激減、内湾の砂浜は埋め立てや護岸工事でその大半が消失した。干拓地内に存在する裸地は不安定であり、埋立地からも営巣可能な裸地が消失している。

## 【保全上の留意点】

愛知県では、干拓地や埋立地の遊休部分に、淡水や汽水の湿地環境や砂地環境を復元する努力が必要である。内湾に存在する砂浜や、河川に残る砂地環境の保全につとめ、必要に応じて人の立ち入りを制限するなど、本種を含む生態系を保全するための積極的な管理が必要である。

## 【特記事項】

「星崎の闇を見よとや啼く千鳥」。今から300年以上前の1680年頃に、俳聖松尾芭蕉が現在の名古屋市南東部で夜の干潟を詠んだ句である。この時の千鳥とは、夜のアユチ潟（鮎稚潟は現在の名古屋市南部全域にあたる広大な干潟で、愛知県の語源）に群れて鳴く無数のシギやチドリの総称であり、その中には当然何万羽あるいは何十万羽もの本種が含まれていたものと思われる。

## 【関連文献】

真野 徹, 1984. 黒田長久編, 決定版 生物大図鑑 鳥類, p.114. 世界文化社, 東京.

(高橋伸夫)